

神戸臨浜職安の自由労働者の

統一運動のうごき

神戸市臨浜職安では、自由労働者のあいだには、まだ統一された組合ができていない。こゝには全日自

労の東神戸分会、単立の臨

浜自由労働組合、さらに全

て組合が一つにまとまり、

さらにはまとまるだけでなく

もつと強い闘いをやっつけてい

かなければいけないという

考え方はたえず存在してい

労働運動

洋 島 高 編集人
神戸市灘区灘北通4丁目39 発行所
阪神労働者懇談会
創刊号 1960. 2. 1

日共はこの二の二の血まよ

ていられる。東京青年学

生共闘会が神戸山陽大は

全学連はトロッキスト団体

だから、これを排除せよと

と何度も主張し、とうとう

採決した結果、賛成はた

ひとり、反対はそれ、その浮

き上りが笑いのこぼれた。

トロッキストであろうが

なからうが、安保斗争では

誰がほんとうに真剣になり

積極的に深く問題をとらえ

る。

と。ところが、昨年の夏の手

向をさまじげていたのでは

あり、政党や個人のための

ものでないことを、はつき

りとさせることによつて、

統一は必ず可能となるだろ

う。

年末、年頭にかけての斗

ま、ふしぎな共通性を

露呈しているわけだ。

「永田の朝の新しい出発」

「夜明けの朝の新しい出発」

「極道オヤジのアメリカ」

「カネとカネ」など、一月

十六日、岸渡米をこのよう

は、政治や経済の具体的な話

対に組合をセクト化し、独

定の政党にむすぶつけよう

とする考え、うごきがあ

り、さらには組合幹部のセ

フシヨナリズム、あるいは

個々の組合自身の組合的利

己心がどういふ統一への方

向をさまじげていたのでは

あり、政党や個人のための

ものでないことを、はつき

りとさせることによつて、

統一は必ず可能となるだろ

う。

デモやサウリのみなどの直

接行動で政治をかえようと

主張する。これらの思想の

根拠にあるものは、小ブル

ジョアの無政府主義であ

り、盲動主義である。この

き、大衆の政治的結果を

かろうとはしない。と攻撃

する。この政治的結果とは、

国会の神聖性をあがめ、議

会主義をまもり、大衆から

もりあがるエネルギーは全

部の善悪にかかわらず

すべし、といふわなのだらうか

職場からの自主的エネルギーを

のばせ

本年は、日本の労働運動

は一つの転機に立つ試験期

に入ったようである。

社会党の分裂に影響され

て、総評と全学連との

溝は深くなり、決定的な対

立相に迫りこまれ、統一

戦線の夢は破れたといえ

る。

又一方に、岩戸景気から

黄金の年を迎えて、賃上げ

斗争による経済要求は有利

に見える。その実、物価高

さりに一方に、共闘をつ

つて、共闘の進展は、賃金

体系の確立は遅い、それ

で、石炭合理化による失業

者問題は深刻となり、昨年

から未解決のまま、持ちこ

た。労働組合は、好況と不況

との両端に陣取りの斗争

型態を組みださなければな

らぬことは、現実の情勢に

応じて進むべきである。

新

さりに一方に、共闘をつ

つて、共闘の進展は、賃金

体系の確立は遅い、それ

で、石炭合理化による失業

者問題は深刻となり、昨年

から未解決のまま、持ちこ

た。労働組合は、好況と不況

との両端に陣取りの斗争

平和と労働者

生 田 寺 鋼 致

労働組合は労働者が職場で

が労働者が賃金要求を

確保することを

平和世界大会開催拒否の

動は「全学連」の行動以上の

の実力のあることを自覚し

実践の場を練る必要がある。

これからの労働者の活動は

従来の上からの指令によつ

て動く春斗、秋斗のスケジ

ユール斗争でなく、下から

自主的に立ち上り、労働者

の連帯精神の協力が横へ

主張

「がんばれば全学連」

大新聞に書きたてさせた

大きな力の才一に、全学連

をあげることには、ふつう

の判断をゆつものは誰か反

対しない筈だ。

それを、一月廿五日アカ

ハタは紙面の半分を占め、

して、何かれらは無秩序な

と、というわなのだらうか

らぞこにはない。

× × × × × × × × × × ×

× × × × × × × × × × ×

× × × × × × × × × × ×

